

2012年7月1日

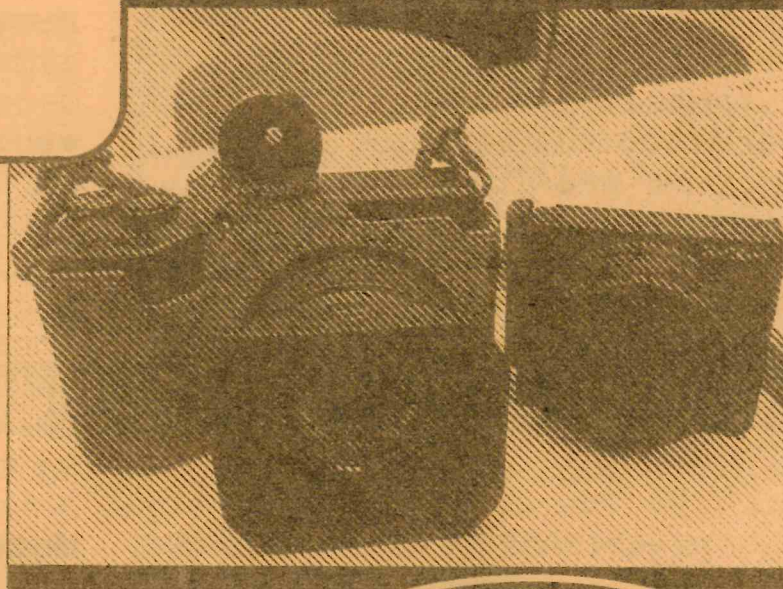
Vol.82

みみん みみん

俊

【題字】谷川俊太郎さん

MY FAVORITE お気に入り小物拝見



当センター理事の針生英一さん。お気に入り小物は、RICOHのデジタルカメラです。いくつもお持ちのカメラの中の二つとのこと。本体にぴったりな専用の革カバーつきます。よく風景の写真を撮るお撮りになるそうで、「これでスベインの風景を撮りたい」とお話ししてくださいました。カメラが入っているとは思えないほどスライリッシーな鞆に入れ、颯爽と持ち歩いていたのが印象的です。

■目次

P1…… 目次

P2~4 理事鼎談

(代表理事 紅邑晶子 × 理事 針生英一 × 理事 風見正三)

P5~7 せんだい・みやぎNPOセンターの事業から(2012年3月~2012年5月)

P6…… 新スタッフ自己紹介

P8…… 新規会員・継続会員、編集後記、お知らせ、連絡先等

理事対談

「志を連鎖させるソーシャルビジネスを！」

～イノベーションスクールとしてのフラスコおおまちへ向けて～

2012年7月より、平成24年度仙台市事業【東北復興創業スクエア事業(起業家育成)】(註1)の委託を受け、「イノベーションスクール」(以下、スクール)を開講する「フラスコおおまち」(以下、フラスコ)。当センター代表理事の紅邑、担当理事の針生、スクール総合プロデューサーの風見の3名が展望を語ります。

■戦略的なマッチングで、セミラティス構造へ

紅邑／一昨年8月に開設されたフラスコ。民間のソーシャルビジネス・コミュニティビジネス(以下SB・CB)の場の提供を目的として運営しています。今回、仙台市事業のスクールとして役割を果たすことになりましたが、今後のフラスコ、さらにSB・CBへの期待や課題とはどのようなものでしょうか。

風見／時代が大きく変化しており、本来ビジネスに備わっているソーシャルな部分への期待が大きく高まっています。そのような中で、マッチング等によって化学反応を起こすフラスコは非常に効果的。今後このような場がさらに重要になるため、しっかりと維持していくことが評価へ繋がるのではないのでしょうか。さらにスクールで最も重要なポイントは、初期のコンセプトの通り、ビジネスや人材を繋いでいくこと。震災をきっかけに社会問題の解決、地域資源の活用によって、再び自立型の産業をつくる欲求が高まっています。実際に様々な活動がなされていますが、しかしどこに繋げるかが実はまだはつきり見えていません。戦略的にマッチングし、実際に

形をつくる時期に来ています。今後、本当の意味での情報や人材、様々なノウハウ等の共有を起こし、東北のSB・CBのメッカになってほしいと思います。

針生／印刷業界はあらゆる組織・個人と繋がりがあります。地域の活性化なくして企業にフィードバックはありません。自分の会社が地域に対して何が仕掛けられるか、どのような人たちと仕組みづくりができるかを考える中で、同じことを考えている人が様々な分野にいと分かりました。しかし縦割りになっているため、リソースやノウハウが共有されないまま、それぞれに同じようなことを行っています。このままでは成果が出ないと思い、自らが横糸・横軸になることを行ってきました。同じ思いと力を持った人がどこにいるのかを探し出し、プロジェクトを行い、相手进行评估し、また自身も評価されながら関係性を作るべきです。FLight(註2)では様々な組織と協定書を結んでおり、スタッフも提携先の事業団に出向しています。このように自身のリソースを外へ出すことによってネットワークを形成すべきです。これをさらに具体的にするため、今回の事業は効果的な取り組みだと思えます。

風見／ほとんどの政府や産業の構造は、命令が上から下に一歩方向で行くツリー構造。これからはある拠点に縦横無尽にお互いがシナプスのように伸び、それぞれが情報を持ち合い、有機的に連携していくセミラティス構造が必要です。社会全体から見た自分たちの位置を意識し、全体と個がバランスよく柔軟に変化し合えない限り、産業や社会は成り立たない時代に来ています。志の連鎖で企業と地域が繋がったサクセスストーリーや、ビジネスモデルを具現化・可視化していくことに今回の事業を活かすべきだと思えます。

■社会問題の解決がビジネスの根幹

針生／我々では、SB・CBの考え方を取り込みながらビジネス展開をしています。事業の形は部分最適から全体最適へシフトしており、既に自分だけ良ければよいという商売は成り立ちません。サービスの付加価値を高めるためには、SB・CBの視点を持たなければならないと認識すべきです。

紅邑／結局、企業活動はソーシャル的なこと。利己的なものは成り立たないということですね。

風見／日本全体を豊かにするためには、地域の産業や人々がいきいきとしなければなりません。一見当たり前ですが、その状態を社会的に作り出すことはたやすいことではありません。この社会問題の解決によってビジネスが成立する仕組みを作ることが重要ですし、実はビジネスの原点はすべてここに 있습니다。事業に社会的要素を含むことが当たり前になり、本当の意味でソーシャルビジネスから「ソーシャル」が抜ける日がゴールだと思っています。

紅邑 晶子さん
代表理事
せんたいみやきNPOセンター





針生 英二さん
NPOセンター
理事

■牽引者の育成と教育

針生/フラスコを運営していく上でも、内部的な人材教育・外部のネットワーク作りは重要な課題だと思います。

紅邑/2011年3月、フラスコの運営にあたり東京の施設を視察しました。そこで分かったことは、うまくいっている施設には必ず家守(やもり)がいること。フラスコの核になるコンセプトと合わせ、支えていく人材の人物像を考えることが必要だと認識しました。風見先生がおっしゃる通り、フラスコの持ち味は化学反応を起こすことです。それを生み出すネットワークも必要ですが、仕掛け人が最も重要だと思います。

針生/地域の牽引者の育成で言うと、自分たちでリスクを取ってビジネスを始める土壌作りから始めないといけないと思います。例えばビジネス起業講座などに興味を持つ人はいますが、実際に起業する人は少ない。これは教育と関わらないと難しい部分がありますね。

風見/おっしゃる通り、やはり教育が重要です。小・中・高・大の教育はもちろん、社会に出てからの教育も必要。企業それぞれにポリシーがありますが、その教育にどのようにソーシャルリテラシーを入れられるかが課題です。教育の難しい点は、これまでは縦割り構造に都合の良い人材を作り出している点。若いうちに誰をどのように繋いで、人を探すというような経営トップの考え方ができる環境がまだまだ足りません。大学、企業もそのような「苗床」整備に協力すべきだと思います。

紅邑/市民活動、SB・CBに関わる方に話を伺うと、リスクが少ないフォロワー希望の方が多い。チャレンジもできて失敗もできる。これが日本ではなかなか難しい部分です。

針生/日本では会社をつぶしてしまったら負け犬というような意識が根深い。このようなリスクを負うのはなかなか大変ですね。

風見/本当は、リスクを超えて成果を出すことが一番楽しいのです。しかしやってみないと踏み切れない、そのような人が多いのが現状です。その中から光るものを引っ張り上げなくてはならないと思います。さらに活動を始めても、顔見知り同士で小さくまとまって、他へ繋がらない場合も多いものです。

針生/自分たちで枠をつくってしまい、そこを出ないのですね。それを壊すリーダーの出現が必要で。独善的に活動を行うのは問題ですが、信頼性があり、強力なリーダーが地域にいないと壁を壊せない部分があると思います。

風見/新しい人材の育成が必要不可欠ですね。これからの育成像は「プロデューサー」。キャスティングする人でもあり、お金を産み出す人。何がプロデューサーにとって必要か、今後実践的なインキュベーションの中で作っていかねばならないと思います。

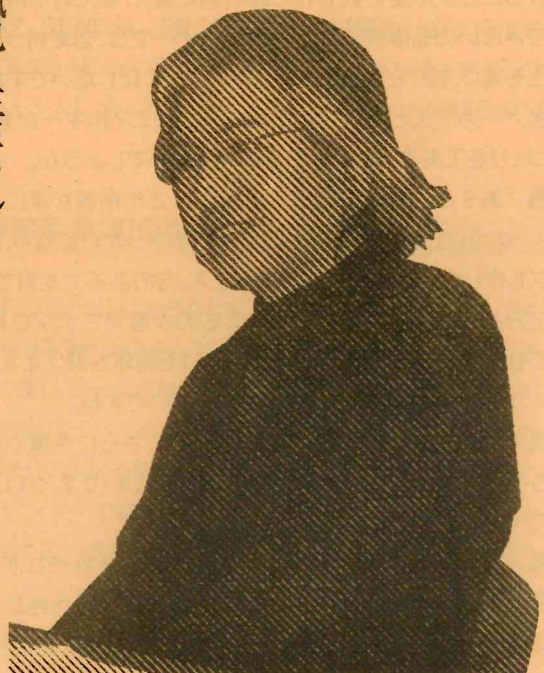
■志を育て、経営手法を学べるスクールへ

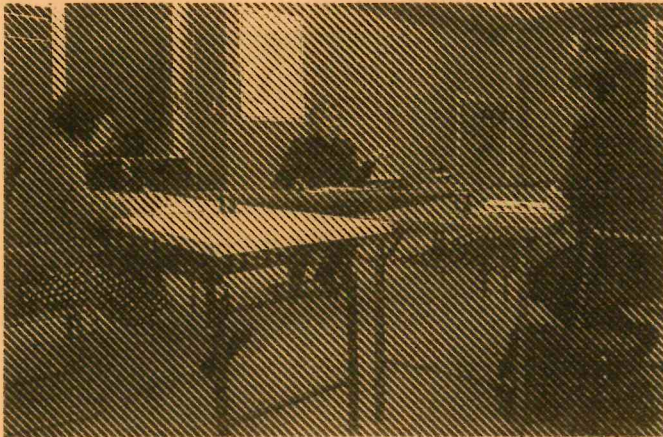
風見/スクールは実践的なものを学べる場にしたいですね。ある程度起業の準備が整った時に、事業団へ行くことやコンサルティングを受けることが可能だという突破口まで誘導したいです。

針生/フラスコはSB・CB支援が主ですが、実際にお金をどう回すか、組織をどう作るかという部分はベースには企業経営のノウハウも併せ持つべきだと思います。

紅邑/NPOの代表は、経営の視点なしに志のみで活動しているという課題があると感じます。これからは、片手に志、片手にそろばん。雇用している人たちへの責任という意味でも経営はしっかりと学ぶべきです。

風見 正三さん
NPOセンター
理事





風見／志と経営は両輪です。NPOなどの社会問題解決では、営利的なもの、お金は敵というような感覚がまだ根強い。しかし、お金が入ってくるのが問題ではなく、どのように使うかが重要。NPO活動をするのに対して、お金の貯蓄をするアレルギーがない社会を作りたいと思います。社会問題解決をビジネスの手法でアプローチすることによって、雇用を生み出せます。これが一番の社会経済的な効果を生み出すことに繋がります。

紅邑／「東北未来創造イニシアティブ」(註3)においても、たとえ企画そのものは拙くても、志と共感性を尊重し、それを基準にしたいと思っています。助成金審査の場合でも引き算で点数をつけてしまいがちで、なぜこの事業を行いたいと思ったのかという「志」に目がいかない場合もあります。

針生／荒削りだが、これを行うのなら応援するぞ、と思わせる志を期待したいですね。しかし支援する側も、責任を持ってバックアップしていくという覚悟を持つべきです。

風見／志は植えつけられません。だからこそ持っている人をすくいあげることが重要です。しかし総合的に見て、志だけでは事業を継続できないのも事実です。今回のセミナーでは、志を持っている人同士を繋ぎ、独り立ちできるようなスクールにしたいですね。

針生／一方で人と継続的につながるにはエネルギーが必要。その場づくりを工夫する必要もあるのではないのでしょうか。

紅邑／あそこに行けばあの人に会える、この情報が手に入るというような引力が大切。スクールが初めのきっかけになり、次のステップも作り出していければと思います。志のある方を育て、次は育った方が他の方を支えるようになるのが理想です。2012年11月でせんだいみやきNPOセンターは15周年を迎えます。今後、フラスコも代表事業のひとつにしていきたいですね。

風見／これまでは序章。NPOにとどまらず、さらに企業や行政など、まちづくりへ向かって繋ぐ役割を担ってほしいです。クロスセクターの一番の中心であるべきですね。

紅邑／フラスコに限らず、NPOと企業や行政、それぞれが持っている長所を活かし、不足している部分は連携で補うべきだと思います。針生さんがおっしゃった通り、こちらのリソースを提供し、外に

ある様々なリソースを活用させていただくことが重要。それができる関係づくりをこれからもしていきたいです。

(記録・編集・高尾詩乃)

(註1)東北復興創業スクエア事業(起業家育成):平成24年度仙台市事業。東日本大震災からの復興過程で生まれる新たな社会的需要に対応した、多様なビジネスを創出するとともに、復興プロジェクトの担い手となる起業家を対象とした連続講座の開催や、起業家のネットワークづくり支援を目指す。

(註2)FLight(フライト):仙台印刷工業団地協同組合が運営するインキュベーション(新事業創出支援)施設。

(註3)東北未来創造イニシアティブ:東北大学経済学研究科地域イノベーション研究センターと東北ニュービジネス協議会が中心となり、岩手、宮城、福島の前被災地の現場で地域を支える団体や組織と協働しながら、人材育成、事業創造メンタリング等を展開。定期的に起業の進捗状況を共有、セクターを横断した支援連携を実現することを目指す。

フラスコイノベーションスクール

7月5日、第1期スタート!

<概要>

1期3か月で、第1期、第2期、第3期と同一講義で開催。

受講料無料。

<カリキュラム(案)>

※状況により変更の可能性がございます。

- 1 ビジネスの意味と目標
(CBSB概論、社会起業論、事業設計、課題分析、ゴール設定、コーチング)
- 2 社会環境と経営戦略(経営戦略、行政対策)
- 3 ビジネスの戦略と展望(ソーシャルビジネス論)
- 4 マーケティング(広報戦略、マーケティング)
- 5 アカウンティング(経営管理、財務会計)
- 6 地域観光とプロモーション(観光、地域交流、リーダーシップ)
- 7 市場創造と起業論
(マーケティング、マネジメント、コンセプト設計、企業支援)
- 8 起業支援(事業設計、課題分析、ゴール設定、合意形成、全体視野)
- 9 経営実務(1)
- 10 経営実務(2)
- 11 経営実務(3)
- 12 総括と起業プレゼン
- 13 ターゲットプロジェクト 起業家現場訪問
- 14 ターゲットプロジェクト 起業家現場訪問
- 15 オープンセミナー(受講生だけでなく一般参加も可能)
- 16 起業支援相談会
- 17 起業支援相談会

※「フラスコイノベーションスクール」は、仙台市の委託事業です。

次世代リーダーのための 組織力アップ集中研修

2012年3月24日(土)・25日(日)仙台市民活動サポートセンターにて、独立行政法人国際協力機構「NGO人材育成研修地域NGO提案型研修」の業務委託事業として「次世代リーダーのための組織力アップ集中研修」を開催しました。

■5つのテーマの集中研修

事業戦略・事業計画・広報・資金調達・組織体制。市民活動団体が安定的に事業を展開していく為に必要な5つのテーマを、講義・ワークショップを織り交せた形式で2日間にわたり学びました。

講師陣は、社団法人WIAを立ち上げ社会起業家支援をしている加藤徹生さん(事業戦略)、当センター代表理事紅邑晶子(事業計画)、神奈川で介護事業を行っている川内潤さん(広報)、大阪ボランティア協会事務局長の水谷綾さん(資金調達)、V・マネジメント代表の松本修一さん(組織体制)と全国的にも著名な方々を中心にお招きしました。講義で基本を学びつつ、ワークショップで参加団体が直面している課題に落とし込み考えていきました。アンケートでは「分かりやすく真剣に考える事ができた」「自分の団体に落とし込んで考えられ良かった」など満足度は高い様子でした。

■参加者同士の交流も

終了後には参加者間で名刺交換・情報交換など、積極的に交流している様子が見られました。ワークショップでグループを組み、活動内容や課題等を共有しながら行ったことが効果的でした。特に石巻エリアから5名参加しており、お互いの事業について積極的に意見交換していました。講座終了後も今回生まれた繋がりが地域での活動に活かされることを願っています。

また、今回のターゲットは「震災後に事業が拡大し改めて組織基盤を強化していこうとしている団体」でしたが、中には震災直後に活動を始めた団体の参加者もいらっしゃいました。まずは活動を起こし今後改めてミッションの確認や事業戦略の必要性を踏まえて活動を広げていくことを考えている「若い」団体にとっても、他団体の活動を知る機会となり、今後の活動の参考になったようでした。(宮本裕子)



アラバキロックフェス NPOブース

東北最大のロックフェスティバルである「ARABAKI ROCK FEST.12(主催:GIP等)」。4月28日(土)、29日(日)の2日間、全国各地から約4万人の方が川崎町のエコキャンプみちのくにを訪れた中、当センターでは地元NPOのブース出展をコーディネートし、ご来場の方にワークショップを通じてNPOの復興への取り組みなどをご紹介しました。

■NPOとの出会いの場

この企画の目的は「NPOと出会う場」をつくり、その活動内容や現在の社会課題を知って頂くことです。特に今年は「復興支援活動」を中心に、ワークショップを通じて現場の状況や現場で活動する人と触れ合い、少しでも被災地の事を身近に感じてもらえる団体をコーディネートしました。同時にNPO法人ボランティアインフォさんの復興支援ボランティアなどの情報提供ブースを設置し、ワークショップをきっかけに次の行動に結び付けられるような場づくりを目指しました。

■出展団体の一覧

【チーム船越】石巻市雄勝地区の名産「雄勝石」が材料のアクセサリーづくり／【Myrtl(マートル)】仙台市若林区の見なし仮設住宅の手仕事グループによるアクセサリーづくり／【社の都チームドルフィンドリム】マッサージスキル習得による被災女性の仕事づくりに取り組む団体のハンド・フットマッサージ／【EARTHDAY SENDAI PROJECT】持続可能な社会を目指す団体の木製アクセサリーづくり／【NPO法人ボランティアインフォ】来場者1人1人に合った復興支援ボランティアの情報提供ブース

■NPOと参加者、500の出会いが誕生

2日間の参加者合計は約500名。参加者はワークショップを楽しみながらNPOと交流をしていました。アンケートでは「今までのフェスに無いブースだね」という感想や、「遠隔地でできるボランティアを知りたい」という声があり、団体のPRと共に、具体的なアクションにつながる機会になったのではないのでしょうか。これからも当センターでは、企画を通じてNPOなどの活動を広める機会を提供していきたいと思います。(菊地竜生)

これも一つの支援のカタチ ～企業による物品提供～

4月は企業2社による物品提供がありました。1社はデジタルカメラ10台を提供くださった東北インフォメーション・システムズ株式会社さん。もう1社は仙台市中心部のキッチン施設閉鎖に伴い、二千超のキッチン用品を東北電力株式会社さんから。どちらも当センターに事務局をおく「サポート資源提供システム」の一環プログラムとして行われました。

■情報公開・発信マインドにあふれる団体へ

サポート資源提供システムを活用する団体は「みやぎNPO情報ライブラリー」団体登録が条件となっており、活動・収支状況などの情報公開を行って頂いています。これにより、本システム経由で手渡された物品や助成金等の使い道を、提供元をはじめ広くたくさんの人々に知って頂くこととなるからです。

今回のデジカメ提供では、台数の都合上、残念ながら希望団体全てに差し上げられませんでしたので、ライブラリーの趣旨を鑑み、情報公開・発信を日頃から積極的に行っている団体を優先に提供させて頂きました。

■配食、障がい者施設、子どもケア団体等へ

東北電力さんからは、市中心部の会議室を会場に、鍋から計量スプーンまで、さまざまなキッチン用品を提供頂きました。中古品ではあるものの、もともとはしっかりした品ばかりで、参加した7団体は皆さん大喜びでした。

最初はぎつちりうまっていた会議室が最後には何も無い状態に。残ってしまうのでは？と心配されていた東北電力の担当者の方も、この光景に笑顔がこぼれていました。

提供の詳細は当センターブログにてお読み頂けます。

(小川真美)

相談・つながるサロン開設!

仙台市市民活動サポートセンターでは、4月より市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口をひとつとし、市民活動やシニア活動の総合相談コーナー「相談・つながるサロン」を市民活動サポートセンター3階に開設しました。

■じっくり相談できるスペース

開設された総合相談コーナーは、テーブルを囲んでじっくり相談できるスペースとなっており、すでにたくさんの相談が寄せられています。対応可能な相談内容は、団体運営、法人格の取得、復興支援活動、企業の社会貢献活動、シニア活動など。平日は午前10時～午後8時、日曜・祝日は午前10時～午後5時まで、相談を受け付けています。(休館日:毎月第2・第4水曜日)

■交流・連携すすむスペース

同じく3階には、団体同士の交流・連携を図るためのフリースペース「交流・連携すすむスペース」も。NPO法人関連情報や助成金情報の掲示板があり、最新情報が入手できます。また月に1回程度、団体同士が情報交換し学び合う「サポセンサロン」も開催予定です。

■NPO法人の相談も強化

4月の改正NPO法施行により、仙台市内にのみ事務所を置くNPO法人の認証窓口が宮城県から仙台市に変更になりました。これに伴いNPO法人の皆さんや、NPO法人化を検討している皆さんの相談が増加することが予想されることから、「相談・つながるサロン」では、NPO法人の運営相談やNPO法人化の相談にも力を入れています。改正NPO法のことなどで不明な点がありましたら、お気軽に「相談・つながるサロン」へお越しください。(太田貴)

新スタッフ自己紹介

阿部 孝行(あべ たかゆき)

勤務地:大町事務局

昨年の発災以降、何か自分に出来ることは無いかと思い避難所運営等を経験して今年の4月からお世話になることになりました。NPO業界のことは全く分からず少しずつ勉強して自分の中で何かをつかみたいと思います。趣味はフォトグラフです。

伊藤 博章(いとう ひろあき)

勤務地:大町事務局

49歳 塩釜市在住。現在、塩釜市パークゴルフ協会事務局長、塩釜市体育協会評議員、塩釜市補助犬協会代表。月ヶ丘小学校PTA会長、町内会総務部長、本町商店会特別会員、リトルリーグ塩釜ドラゴンズ等々で活動をしています。週末もフル稼働しています。

高橋 修太(たかはし しゅうた)

勤務地:大町事務局

28歳、仙台市在住。前職は東京都江東区の商工会議所に勤めておりました。主に会計・決算処理、中小企業の経営相談などにあたっておりました。また東京在住の時、路上生活者や派遣労働者の支援活動にも携わっておりました。よろしくお願ひします。趣味は読書、ドライブなど。

みやぎNPO夢ファンド

みやぎNPO夢ファンド(以下、夢ファンド)は、宮城県からの拠出金と市民・企業などからの寄附金を原資とし、県と当センターとの協働により実施しているNPO向け助成プログラムです。2012年度で9年目を迎え、(A)ステップアップ支援プログラム、(B)組織開発(人材育成を含む)支援プログラム、(C)スタートアップ支援プログラムの3つのプログラムで行っています。

■大盛況だった個別応募相談会

夢ファンドの公募は2012年2月からスタートしました。助成金への申請を検討しているNPOを対象に、2月末から4月上旬の間で数回に分けて個別の応募相談会を実施しました。震災後、新たに立ち上がった団体が多いせいか、今年は特にスタートアップ支援プログラムへの申請を考えている団体からの問い合わせが増え、相談会には合わせて28団体ものご参加をいただきました。

最終的に申請があったのは、相談会へ参加しなかった団体も含めて23団体でした。相談会には参加したものの、申請書を書いて提出するまで至らなかった団体も多く、そうした団体へのサポートも考えていく必要があります。

■ステップアップの助成先が決定

ステップアップ支援プログラムは、宮城県内におけるNPO活動のモデルケースへの発展が期待される非常に公益性の高い事業に対して助成するもので、助成額は100万円です。4月21日(土)に2次審査(公開コンペ)がみやぎNPOプラザの交流サロンを会場に行われました。4団体が発表を行い、夢ファンド運用委員

による厳正な審査の結果、以下の3団体に助成が決定しました。

- ◎特定非営利活動法人World Open Heart
- ◎特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク
- ◎アートリバイバルコネクション東北

■組織開発とスタートアップの状況

組織開発(人材育成を含む)支援プログラムは、組織の抱えている課題の解決を目的とした組織づくりや、人材育成・情報発信の体制を強化する事業に対して助成するものです。また、スタートアップ支援プログラムは、すでに活動しているNPOによる新規事業の立ち上げや、これから活動を始めるNPOに必要な初期費用の一部に対して助成します。

これら2つのプログラムは、ステップアップ支援プログラムより1ヶ月ずらしたスケジュールとなっています。5月26日(土)の2次審査(公開コンペ)で以下の8団体にに対し助成が決定しました。これらの事業が、今後成果をあげていくことが期待されます。

組織開発

- ◎特定非営利活動法人POSSE
- ◎特定非営利活動法人スマイル劇団
- ◎特定非営利活動法人ふうどばんく東北AGAIN

スタートアップ

- ◎特定非営利活動法人子育て応援団ひよこ
- ◎特定非営利活動法人防災士会みやぎ
- ◎特定非営利活動法人JETOみやぎ
- ◎オオサキノオト編集室
- ◎一般社団法人つむぎや (布田剛)

東日本の再生にユース(若者)の参加を!~住友商事 東日本再生 インターンシップ奨励プログラム~

住友商事株式会社主催、(特活)市民社会創造ファンド(以下、ファンド)企画・運営協力、当センターが現地協力団体となり、9ヶ月の長期インターンシッププログラムがスタートしています。これは、東日本大震災からの地域再生プロセスにユース世代が関わることで地域の人材育成を目指すもので、次年度以降は宮城に加え、岩手、福島と順次展開し、5年にわたって行われる予定です。

■インターン受け入れ先は県内の7団体

本プログラムの打合せは昨年末に始まりました。そして今年、正月気分がまだ抜けきらない時期、ファンド担当者と共にインターン受け入れ団体の選定にとりかかり、団体向け説明会を経て、2月に当センターを含めた全7団体の受け入れ先が決定しました。今年度の受け入れ団体は以下です。(特活)グループゆう(高齢者/障がい者支援)、(特活)都市デザインワークス(まちづくり)、国際交流協会ともだちin名取(外国人を含む被災者支援)、(特活)Switch(若者/障がい者支援)、(特活)ハーベスト(青少年・教育)、(一社)ふれいん・ゆに〜くす(障がい者&被災者支援)、そして当センター(市民活動団体支援)です。

■熱い想いが飛び交った希望者向け説明会

受け入れ先が決定した後、4月末に希望者向けの説明会が仙台市市民活動サポートセンターにて開催されました。この説明会には主催の住友商事から担当の2名も参加され、本プログラムの趣

旨や、インターンとして活動する中でどのような社会人となって欲しいかなど、直接お話いただきました。

説明会自体は参加者合計14名とそれほど多く的人数ではありませんでしたが、留学生や、関東からわざわざ駆けつけてくださった方もおり、社会に対して自分がどのように関わるべきかを真剣に考え、また震災復興へ向けた熱い想いを心に秘めていらつやる姿がとても印象的でした。

■地元だけでなく、遠く京都からの応募に驚愕

インターン希望者の応募期間は5月1日~15日の約2週間でした。応募総数は13通。本プログラムは、活動奨励金(1時間あり800円)や交通費(片道上限千円)が支給されるとはいえ「県内応募者がメイン。もしかしたら隣県からも?」と想像していたところ、遠くは京都や関東からの応募者もいて、関係者一同驚きを隠せませんでした。「応募書類の小論文を読ませて頂くと、「被災してもいいし東北出身者でもないが、自分も被災地(者)のために何かしなければいけないと思った」「地元のために動かなければ」という、本当に熱い想いが詰まっていました。金銭ではなく、こころから湧き溢れる何か彼らを大きく突き動かす原動力なのだと、今後のインターン活動に期待せずにはいられません。この記事が読まれる7月頃には実際の活動が始まっています。様子は追って次号以降レポート致します。(小川真美)

サポート・ご協力 ありがとうございます

■平成23年度会員(敬称略・順不同、2012年4月1日～5月31日)

(正会員)(特)日本ファンドレイジング協会、新川達郎、木村正樹、藤原範典、内海裕一、後藤美香、(特)東北マンション管理組合連合会、
(特)イコールネット仙台、(特)ミヤギユースセンター、大須智栄、小松州子、谷川俊太郎、CILたすけっと、(特)住民互助福祉団体ささえ愛山元、浅見紀夫、
坂下康子、片倉玄、紅色晶子

(準会員)渡邊雅昭、仙台いのちの電話、佐々木孝行、(特)ふくしまNPOネットワークセンター、片平たても、應援團、工藤聡子、
くらしきパートナーシップ推進ひろば、岡崎トミ子、上野裕子、布田剛、宮城県麗人会、坂下康子、葛西淳子、飯室真美、片倉玄、瀧澤陽子

■平成24年度会員(敬称略・順不同、2012年4月1日～5月31日)

(正会員)(特)Switch、(特)ミヤギユースセンター、片倉玄
(準会員)工藤聡子、上野裕子、宮城県麗人会、飯室真美、片倉玄

■企業・団体協力(50音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、富士ゼロックス宮城(株)(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

ご寄附ありがとうございます

■東日本大震災救済・復興支援活動のためのご寄付(2012年5月末)

プロペラ募金への寄付総額(当センターが行う復興支援活動を応援する寄付).....222件 22,610,913円

■はばたけファンドへの寄付総額(宮城県内NPOが行う救援・復興支援活動を応援する寄付).....39件 10,348,180円

せんだい・みやぎNPOセンターのご案内

当センターは11月をもって設立15周年を迎えます。

日 時:2012年9月9日(日)13:30～

場 所:仙台市市民活動サポートセンター 6Fセミナーホール
記念講演など詳しいご案内はあらためてお伝えします。

ろうきん地域貢献ファンド 助成プログラム

Aコース…事業助成 助成額 10～20万円(1万円単位)

Bコース…備品購入助成 助成額 上限10万円

助成団体数 Aコース:5～6団体程度 Bコース:5団体程度

募集期間 7月1日(日)～31日(火)(当日消印有効)

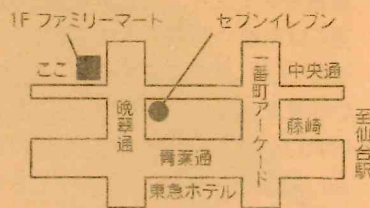
連絡先

特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPO センター
〒980-0804 仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 4F
TEL:022-264-1281 FAX:022-264-1209
E-mail:minmin@minmin.org HP:http://www.minmin.org/

発行:(特活)せんだい・みやぎNPOセンター

代表理事 大滝精一
紅色晶子

編集部:小川真美
発行日:2012年7月1日
デザイン:氏家朗



岡元ビル 4F 仙台駅から徒歩 20～25 分

セミナーのご案内

地域資源を生かした企業人と市民の社会貢献(仮)

中長期の復興支援が予想される中で、企業として地域資源を活かした社会貢献の在り方、市民のボランティアスタイルについて考えます。

地元農家と連携した事業「マルシェ・ジャポン」に取り組んでいる(株)ファミリア代表取締役である島田昌幸さんの講演、被災地の再建や雇用創出のきっかけとなる被災地における仕事づくりの紹介もあります。

日 時:2012年7月26日(木)13:30～15:30

場 所:ハーネル仙台

編 | 集 | 後 | 記 |

5月・6月とみやぎ連携復興センターとして、神戸と長岡に視察に出かけました。いずれの地でも、復興支援に関わった方々の体験談は、同じ立場で関わっているわたしたちにとって共感することが多く、これからの取り組みに生かせる発見がありました。被災の規模や地域性は違うのですが、被災者自らが自立的に地域の課題を解決するための支援をするということは、共通するものでした。その単位は、自治会や集落単位であることも多く、ローカルコミュニティを支えることも復興につながるということだと思いました。けれどそれ以前に、被災者の方がそれぞれの自立につながる基盤となるものを支える仕組みが大切であることもわかりました。このようにわたしたちが学んだことや情報をこれからはみやぎ連携復興センターのHPで皆さんにもご紹介していきたいと思えます。うまくご利用いただければ幸いです。
(代表理事 紅色晶子)

「ダイアログ」。耳にされたことがある方もいっしょやるだろう。対話の機会を提供し、そこから「何か」が生み出される場。単なる日常の会話と違い、ことは紡ぐことにより、一人一人の中にある知識や考え、思い、アイディアが共有される場。そういえば毎日顔を会わせている同僚でも、ベツが何だとか趣味は何だとか、実は知らないことはたくさんある。いっしょや深い思いである。先日、ダイアログを日本に広める活動をしているアメリカ人リーダーとお会いした。改めて対話の必要性・重要性を感じずにはいられない。(OGAWA)